

選択した授業科目の内容です

平成31 年度

操作ボタン

授業科目名 : インタラクティブ空間演習

授業コード : 5K091

英文科目名 : Interactive Space

| | | | |
|--------------|-------|-----|------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 授業形態 |
| 通年 | 1・2年次 | 2単位 | 演習 |
| 担当教員 | | | |
| 石井拓洋 | | | |
| 杉並校地 | | | |
| デザイン専攻研究関連科目 | | | |

| | |
|---|---|
| 科目キーワード | スタディー・スキル、研究方法、藝術研究、文化研究、西洋近代主義、近代批判、記号論、批評理論、実体論、関係論、美学、音楽 |
| 授業内容 1 | 大学院での藝術文化研究を開始するにあたり、そこで必要となる基礎的研究スキルを習得する。また、文献講読をつうじて、今日まで美や藝術、そして文化領域の研究で議論されてきた主要な論点のいくつかを理解する。本演習を通して、各自における研究的視点の更なる深化を目指す。 |
| 授業内容 2 | |
| 授業計画 | <p>前期：</p> <p>第1週 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業説明。 <p>第2～第13週 文献講読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回では、藝術・文化研究において意義をもつテキストを取り上げて講読する。 ・講読テキストは基本的にプリントとして配布する。 ・受講生は、それぞれの担当回を事前に決定の上、文献資料の担当個所の要約を発表する。 ・受講生の状況によっては、英文資料を扱う場合もある。 <p>第14～第15週 課題論考執筆への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期課題論考（過去出題例：「先行研究の批判的検討のレポート」など）の執筆に関する支援 ・前期まとめ。 <p>後期：</p> <p>第1～第3週 前期提出課題の論考の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別対応で内容を検討する。 <p>第4～第10週 前期課題論考に基づく、受講生による研究発表、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回につき一人が発表し、その後、参加者全員で内容を検討する（ただし、受講生の状況を見て、文献要約発表への変更の可能性あり）。 <p>第11～14週 文献講読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（前期に同じ） <p>第15週 後期まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ。後期課題論考（過去出題例：「文献要約レポート」など）の執筆に関する支援 ・演習内容を踏まえ、藝術・文化研究の今後展望、その試論。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学院研究に要する、一般的・基礎的研究スキルの習得。 ・基本文献の位置づけをもつ資料の講読を通じた、藝術史・文化研究史上で必須な論点の理解。 ・アウトプットを急ぐよりも、意義ある考察を今後行なうための基礎的知見のインプットがM1の段階において必要なことを知る。 ・基礎的知見の一つとしての（記号論）などを通して、〈言語〉と〈世界認識や思考〉との関係性を理解する。 ・上記目標の総合的帰結として、院生における「テキスト精読」の重要性を把握する。 |
| 授業以外の学習方法 （予習・授業準備・復習等） ※共通理論科目はなるべくご記載ください | <ul style="list-style-type: none"> ・附属図書館などのリソースを有効に利用することで、多くのまた多量の資料に触れたい。 ・常に自らの思い込みの存在を疑い、「テキスト」内の「他者性」を看取り、その価値の受容を試みたい。 |
| 履修者への注意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・真摯に研究を志す立場ならば他領域からの受講生も歓迎する。 ・大学院授業のルールとして、発表担当者が発表当日に欠席することは認められない。 ・受講にあたり、いわゆる「インタラクティブ」の語から連想しうる情報技術は要さず、また、各回でもその周辺に積極的に触れるものではない。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業貢献度（問題提起、論点抽出などの授業参加度）（25%） ・担当回における発表の内容（25%） ・論考 [レポート課題]（50%） |
| テキスト | |
| 参考文献・参考作品 | <p>さしあたり、美や藝術、文化研究上の諸概念を理解するための用語辞典を用意することがのぞましい。以下は一例である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川口喬一・岡本靖正(編)『最新文学批評用語辞典』研究社。 ・ジョゼフ・チルターズら(編)、杉野健太郎ら(訳)『コロンビア大学現代文学・文化批評用語辞典』松柏社。 ・大澤真幸ら(編)『現代社会学事典』弘文堂。 |
| 参考リンク | 講義資料集 http://www.iitak.com/m2019/ |